



チャペルニュース Chapel News No.150

2023年4月1日

東北学院大学 入学・進級号



宗教学部長

原田 浩司

LIFE LIGHT LOVE (いのち 光 愛)

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。心から歓迎いたします。四月から、完成したばかりの、この真新しい五橋キャンパスで学生生活が始まります。東北学院大学の一員として新年度を歩みます上で、皆さんが学ぶ東北学院大学の基本的な歴史と教育方針について理解していただきます。

東北学院は、今から百三十七年前に、押川方義先生と米国人宣教師ウィリアム・ホーイ先生によつて始められた「仙台神学校」から歴史が始まります。その後間もなく来日したデイビッド・シュネイダー宣教師が加わり、「東北学院」に改称し、今日に至ります。つまり、東北学院は創設以来、百三十七年にわたりキリスト教の信仰に基づく教育を仙台で実践してきたのです。本年度、本学で学び始める皆さんは、この東北学院の歴史の継

承者であり、歴史の新しい一頁を開く担い手です。

本学の教育方針は、福音主義キリスト教に基づく人格形成にあります。特に、各学生の人格形成に不可欠な要素として「LIFE LIGHT LOVE」の三つの英単語をスクール・モットーに集約し、大学礼拝とキリスト教を通して、本学の学生は皆、このモットーのもつ貴い意味を学んでいただきます。

総合大学である本学では、学生の皆さんは幅広い高度な教養を育んでいきます。聖書には「知識は人を高ぶらせるのに対して、愛は人を造り上げます」(一コリ、八・二)と記されています。専門の知識や技術を過度に優先し、数値化された客観的データによつて物事を判断することが求められる昨今においては、先端技術や知識を持つ「専門家」の知見が自ずと優先されます。しかし、それらはいつしか「AI(人工知能)」に淘汰されてしまうかもしれません。

今日の世界に求められることは「人を造り上げる」愛に他なりません。学生時代人生における貴重な期間です。本学で学ぶ学生一人ひとりが聖書をおして「いのち 光 愛」を豊かに学び、仙台から「地域へ、世界へ」貢献する姿勢を体得し、共生する平和世界を造り上げる人として成長して欲しいと願います。

新しい東北学院大学へようこそ

学長
大西 晴樹



入学おめでとうございます。皆さんは、土樋・五橋の「都心型ワンキャンパス」で四年間の学生生活を過ごし、なかには、新設四学部(地域総合学部・情報学部・人間科学部・国際学部)の第一期生となる新生もいます。

東北学院大学は、新しい環境のもとで、新しい学問を修めることができる大学であると同時に、建学以来百三十七年間、「キリスト教に基づく人格教育」を建学の精神として堅持してきました。なぜ、キリスト教による人格教育を大切にして来たかという、この建学の精神は、人間と人間の関係、人間と自然の関係、科学技術を考えるうえで、大切な示唆を与えているからです。二十一世紀も Society 5.0 に突入し、瞬時の大量処理、グローバルな展開という時代を迎えており、学問においても最先端の科学技術を学ばなければなりません。しかしながら、人間がそれらの科学技術を行使し、人間や世界や自然を支配しようとしても、残念ながら、不和と憎しみを生み、貧富の格差を増大させ、

自然環境を破壊し、疫病や戦争をもたらしているのが現実ではないでしょうか。極言すれば、科学技術を行使して人間が神に近づこうとしても、結果として、人類や地球の滅亡を招くのではないかと懸念してしまいます。

東北学院は「智徳併行」の大学です。それぞれ専門分野を修得すると同時に、建学の精神であるキリスト教の学びを通じて、神と自分とは何者か、罪とは何か、愛とは何か、救いや希望とは何か、自然とは何か、平和とは何かについて深い洞察力を養ってほしいと願っています。私は、深い洞察力をもち、愛を実践する人格によつてのみ本当の未来が拓かれるのだらうと確信しています。

築九〇年を数えた土樋の由緒あるラーハウザー記念東北学院礼拝堂に出席するもよし、新築の押川記念館の多目的ホールに出席するもよし、皆さんが聖書を読み、大学礼拝を通して「心の基礎力」を身に付けた学院生として成長されんこと切にお祈りしています。

CAMPUS MESSAGES

各担当の先生たちからのご挨拶

Tsuchitoi



ご入学・ご進学おめでとうございます。土樋キャンパスで学ばれる皆さんは、文学、経済学、経営学、法学と、ともすれば伝統的な学問分野に関係する方が多いかと思えます。五橋の新しいキャンパスが羨ましいという方もいらっしゃるかもしれませんが、ラーハウザー礼拝堂をはじめ、土樋エリアの建物は伝統とは何かを問いかける格好の場所です。

キリスト教の授業は、人間が生きることの意味を問いかけてます。よく生きるといふことは、自分とは全く異なる他者たちとともに生き、また生かされてあるということでもありますが、そのことをキリスト教は問いかけてます。キリスト教を学ぶことは、どのような人生を歩むにしても、きつと力になります。

そして授業の合間の時間に、礼拝堂に座り、奏楽の音と聖書の言葉に耳を傾け、静かに黙想することは、忙しさの中で大切なことを忘れ、「ただ生きる」だけになりがちな私たちに「よく生きる」ことを教えてくれます。心身に疲れを覚える人、迷いを感じる人にこそ、礼拝の場所は開かれています。みなさんの大学生活、学びが良いものになりますように。



土樋担当

大学宗教主任

田島 卓

Itsutsubashi



新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます。今年で創立137年を迎える東北学院では開学以来、一貫して建学の精神であるキリスト教主義に基づく人格教育を行い、多方面で活躍する「TG(東北学院生)」を輩出してきました。そして皆様は、東北学院の長い歴史と伝統の中でも、新キャンパス、新学部学科が始動するという節目の年にTG生となられました。

コロナ禍以降、激動する現代社会は「価値大転換の時代」とも言われることがあります。古い方法に固執するばかりでは目まぐるしい時代の変化から取り残されてしまうでしょう。しかし新しい時代を切り拓く偉大な革新は、全くの「無」から生じるのではなく、伝統を真摯に学ぶことで生まれるものです。

新入生の皆さまの中には、大学で初めてキリスト教に触れる方も多くかと思いますが、TG生としての誇りと自覚を持って、礼拝や授業を通して東北学院の伝統であるキリスト教を学んでいただきたいと思えます。本学での学びが、新しい時代を生きる力となることを願っています。



五橋担当

大学宗教主任

藤野 雄大

一緒に歌う楽しさ、

響き渡る声♪

※写真はコロナ禍以前に撮影されたものです。



【コロナ禍での活動】

オンライン配信された
クリスマス礼拝に参加！
(2021年度泉公開クリスマスより抜粋)



【3年ぶりの対面開催となった大学祭に参加！】

野外ステージにて讃美を捧げました。
(2022年度泉キャンパス大学祭より)



新たな学びの場で—— これからの聖歌隊

choirmaster

合唱指導者
中川 郁太郎

宗教部聖歌隊は、建学の精神に基づき、大学礼拝やクリスマスで賛美を捧げてきました。

2020年の新型コロナウイルス感染症の流行以来、聖歌隊は歌声を絶やさないためにZoomを使ったりモット練習や、合唱動画収録など様々な試みをおこなってきましたが、昨年度は4月から感染症対策に十分気をつけながら、対面練習ができるようになりました。これまでおこなっていた大学行事での賛美の他、10月の大学祭でも木下牧子、信長貴富など日本の合唱作品を歌い、名実ともに東北学院大学の中心で歌う合唱団として活動できたと思います。

2023年度は土樋キャンパスと新しい五橋キャンパス、二つの学びの場で新たに歌声を響かせていくこととなります。合唱経験のない人には新しい活動始めるチャンス、合唱経験者には高校までの合唱活動をさらに先に進めるチャンスとなるように、新年度も様々な活動を計画していきます。4月13日から毎週木曜日、15時から土樋キャンパス礼拝堂で練習しています。いつでもいらしてください。東北学院の歌声を未来へと繋げるため、チャレンジを続けてまいります！

聖歌隊活動の最新情報はTwitterに反映させますので、ぜひご覧ください。 @choir_gakuin

「クリスチャンの若者は、いま」

総合人文学科長 木村 純二

宗教部では、毎年八月上旬に、学生によるキリスト教活動の一環としてサマー・カレッジを開催しています。例年、一泊の合宿で、聖書の学びや讚美、レクリエーションなどを行っています。コロナ禍では土樋キャンパスで日帰りのプログラムで実施しています。

二〇二二年度は、八月四日に二十二名の学生の参加により実施されました。午前中はラーハウザー記念礼拝堂で、クリスチャン学生の司会による開会礼拝、東北学院史資料センター見学、レクリエーション(クイズ大会)のプログラムを行いました。開会礼拝は、担当学生が自身のクリスチャンとしての生活や聖書から学んだことなどをスライドを交えて話し、ともに分かち合いました。



午後は、ホーイ記念館二〇一教室に移動し、「クリスチャンの若者は、いま」と題して、二名の講師による講演を聞きました。まず初めに、本学の卒業生で、大学生による超教派のクリスチャン団体KGGKの主事を務めている東(ひがし)すみれさんに「KGGKの主事としてのタイトルでお話しいただきました。続いて、現代的な讚美をYOUTUBE配信するなど、東北を拠点に活動しているクリスチャン大学生のユニットKINSHUKOUNITEDのメンバー、木村楓さん(東京藝術大学音楽学部3年生)に「わたしのクリスチャン生活」のタイトルでお話しいただきました。

質疑応答の後、お二人のリードにより、「我が心の目を満たして下さる方」「その日、全世界が」の三曲の現代的な讚美を参加者全員で歌いました。ふだんの大学礼拝で行われているオルガン伴奏の伝統的な讚美歌とは異なり、ギター、キーボード、パーカッションの伴奏で、みんなで手拍子をしながら一緒に歌う現代的なスタイルの讚美歌で、参加学生たちも大いに盛り上がりました。最後に田島卓大学宗教主任による閉会礼拝があり、プログラム終了となりました。



サマー・カレッジは、本学の学生なら誰でも参加可能です。二〇二三年のサマー・カレッジについては、大学ホームページの宗教部のページで案内しますので、ぜひチェックしてみてください。特に二〇二三年度からは、キャンパス統合に合わせて、学生によるキリスト教活動のための団体TGCF(東北学院キリスト教フェローシップ)が結成されます。みなさんの積極的な参加をお待ちしています。



大学礼拝について

基本的なことを知っておこう

東北学院大学では、講義のある日は大学礼拝を毎日行っています。これは創立した時から現在にいたるまで不変であり、「建学の精神」の具体的な現れです。新入生も在校生も大学礼拝の大切さを知って、午前中にキャンパスにいる時には積極的に出席しましょう。本学での学びに欠かせない「軸」であり、「養い」です。大学礼拝は教会の礼拝よりも短く設定され、学生の皆さんを対象に準備されています。

なお、音楽礼拝や英語礼拝など多少変則的なスタイルの礼拝も行っていますが、大学礼拝の基本的な進行内容をお伝えします。

3

【聖書】

Bible

司会者が聖書を開くように指示します。礼拝堂に早く来た人は、あらかじめ開いて読んでおくことをお勧めします。聖書は旧約聖書と新約聖書で構成されています。それぞれに頁数が付されていますのでよく確認してください。聖書には、人が生きていく上で必要なすべてのことが網羅されていると受け止められてきましたので、一語一句、大切な教えとして聞くように心がけましょう。

2

【讃美歌】

Hymn

司会者が讃美歌の番号を告げます。起立して、心をこめて、声高らかに、一緒に讃美歌を歌いましょう。歌詞を味わうことも大切です。そのうち、自分の好きな讃美歌もできるでしょう。

1

【前奏】

Prelude

第1校時が午前10時15分に終わるとチャイムが鳴り、礼拝堂ではオルガンの前奏が始まります。礼拝堂の最前列から順に着席して下さい。私語は慎み、電子機器はしまって、心を静めて礼拝に備えましょう。

6

【頌栄】

Congregational Response

神の栄光をたたえる短い讃美歌です。頌栄の後、黙祷を捧げます。

5

【祈 祷】

Prayer

司会者は、聖書を説いた後、神の恵みと平安、導きを願う祈りを捧げます。祈りの最後に、司会者と出席者全員で「アーメン」と言います。「そのとおり」の意味です。祈りをみんなで共有する思いで、「アーメン」と唱和しましょう。讃美歌を歌った後の「アーメン」も同じ意味です。

4

【説 教】

Treaching

司会者は、本学の宗教部の先生たちやクリスチャンの先生方であり、教会の牧師の方々が担当される日もあります。どの人も、その日に朗読した聖書に基づいて話されます。一般に「説教」というと、「叱られている」という意味もありますが、「礼拝の説教は、「聖書を説いて教える」とことと理解してください。大切なことは、聖書の「福音」を聴くことであり、人類への「神の貴い愛」を知ることです。



7

【後 奏】

Postlude

オルガンの後奏は、「世へ派遣を意味し、皆さんを礼拝堂から新しい一日へ送り出します。」



田島卓先生（大学宗教主任）
 専門は旧約聖書です。日々の礼拝で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



椎名雄一郎先生（大学宗教主任）
 キリスト教音楽、とりわけJ.S.バッハのオルガン作品研究をしています。礼拝ではみ言葉、そして神様の創造された音楽を共に聴いていきましょう。



川島堅二先生（大学宗教主任）
 専門は近代キリスト教思想の研究。カルトなど社会問題化する宗教の研究や調査もしています。



大門耕平先生（大学宗教主任）
 学校教育について研究と実践を行います。聖書の言葉を知り、考える時間を共有できることを楽しみにしています。



原田浩司先生（宗教部長）
 専門はスコットランドの宗教改革と神学です。講義以外でも、大学礼拝をとおして聖書の言葉の豊かさやキリスト教の教えの魅力に、多くの学生の皆さんに触れていただきたいと思います。

東北学院大学宗教部教員のご紹介



今井奈緒子先生（大学オルガニスト）
 教養教育センター教員として、キリスト教音楽や音楽史、オルガン演奏を教えています。音楽礼拝では、優れた讃美歌やオルガン曲を紹介します。



木村純二先生（総合人文学科長）
 日本の思想や文学を専門にしています。大学礼拝で心を静めて自分と向き合う時間を大切にしてください。



渡邊蘭子先生（大学宗教主任）
 今年4月に着任しました。古代教父アウグスティヌスが専門です。共に聖書の言葉をじっくりと味わっていただきたいと思います。



渡辺有美先生（大学宗教主任）
 初期イタリャ・ルネサンス美術が専門です。全ての良きものをくださる神様をともに見上げて行きましょう。



吉田新先生（大学宗教主任）
 専門は新約聖書です。東北学院のキャンパスで多くの思い出を作ってください。



藤野雄大先生（大学宗教主任）
 専門は、アメリカ教会史。東北学院で豊かな学びがなされますよう、お祈りしております。

第18回

「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ

大学オルガニスト **今井 奈緒子**
 礼拝オルガニスト **小野 なおみ**

◆ 場所

● 土樋キャンパス
 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂
 ● 五橋キャンパス 押川記念館ホール

◆ 受講料

年間一五、〇〇〇円

◆ 期間

五月〜十二月(レッスンは月一回ペースで実施。その他自主練習、演奏会準備)

◆ 募集人数

各キャンパスにつき若干名

◆ 講師

今井奈緒子
 (教養学部教授、大学オルガニスト)
 小野なおみ(礼拝オルガニスト)

◆ ガイダンス開催日

受講希望者は所属キャンパスに拘わらず、五月十一日(木)十六時に、五橋キャンパス宗教音楽研究所事務室(押川記念館3階)へおいでください。ガイダンスの後に受講の意思確認をし、講師との顔合わせ、レッスン日の相談、調整等を行います。
 出席不可能な場合は事前に宗教音楽研究所までご連絡ください(022-354-8312)。なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただきます場合があります。

◆ 受講資格

・ 楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得があること
 ・ レッスン、練習に励む意欲があること

◆ 対象

本学に在籍する学生
 (所属学部、学部生・大学院生を問わず)

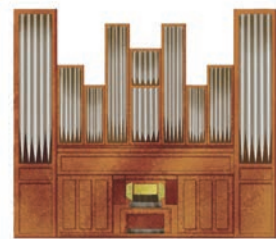
◆ 内容

オルガンの奏法と作品を学ぶ
 (個人またはグループレッスン形式)
 ガイダンスと修了演奏会を実施します。

礼拝オルガニストのみなさん 2023年度

以下の方々が日々の礼拝奏楽をご担当されます。

先生	奈緒子	枝	先生	先生	先生	先生	先生	先生
今井	高和	泉	野	原	司	渡	辺	真
大	小	菅	山	渡				



礼拝の奏楽をもって、皆様を日々の学生生活へ送り出してくれます。ぜひ、オルガンの音色を聴きに、礼拝会場へお越しください。

宗教部 聖歌隊へのお誘い

みなさん、一緒に歌を歌いませんか。中学、高校とみんなで合唱する楽しさを味わった人は大勢いると思います。大学でもぜひ一緒に楽しく歌いましょう。本学の「聖歌隊」は、長く親しまれてきた合唱曲や宗教音楽、また讃美歌を歌い、定期演奏会で発表したり、クリスマスにメサイアを歌ったり、と楽しい企画が幾つもあります。指揮者、ボイストレーナーの先生がしっかり指導してくれます。

歌うことの好きな方は大歓迎です。
 今年度の第一回は、四月十三日(木)の午後三時より、土樋キャンパスラーハウザー記念東北学院礼拝堂にて実施いたします。
 是非、参加しましょう。

編集後記

とかくこの時期は「新生」に脚光が当たりますが、これまで泉と多賀城のキャンパスで学んできた学生たちも、慣れないキャンパスでの学びが始まり、戸惑いも多いかもしれません。

過去三年間、新型コロナウイルス感染症の影響を皆が被ってきました。大学礼拝の実施形態も二年間はオンラインの動画配信がメインとなったため、皆さんはこの大学に「礼拝時間」があることを忘れていませんか？

午前の一限目の講義の後にその時間があります。荘厳なパイプオルガンの奏楽に静かに耳を傾け、聖書の言葉を、今日の文脈において解き明かす説教の話を傾聴する、東北学院大学の大切な時間です。学生の皆さん、是非奮って礼拝会場に足を運びましょう。

二〇二三年四月一日
 編集 東北学院大学宗教部
 〒九八〇-八五一
 仙台市青葉区土樋一丁目三番一号